

状況と原因の予測

メーカーのアドバイス

1 刺繍したラメ糸の変色



刺繍糸が「純銀蒸着」のラメ糸の時、身生地が「天然皮革」「ウール」に含まれる『硫黄分』で黒変します。(化学反応して『硫化銀』となる)

タオルなどの場合、温泉(硫黄系)につけて黒変することもあります。輪ゴムなど「ゴム製品」も硫黄分を含みます。

ラメ糸には大きく「アルミ蒸着」品と、「純銀蒸着」品があります。刺繍用の場合、国内では刺繍業者によって「純銀」が選択される場合が多いです。

金色・銀色のラメ糸は「純銀」で、その他のカラーのラメ糸は「アルミ」と分けられていることも多いです。

「天然皮革」「ウール」などの硫黄分を含む素材にラメ糸で刺繍する時は、手配時に「アルミ」を指定することがオススメです。

2 ラメ糸がチクチクする(ニット)



ラメ糸は、撚りがかったものも、そうでないものもベースとして「スリット糸」が使用されています。(長方形のフィルム)

よって、ラメ糸の種類や使い方によっては肌に「スリット糸」の角部分(エッジ)が当たり、痛く感じます。

現行のラメ糸がチクチクするなら、「スリット糸」の「厚み」を薄くし、「幅」を細い物に変更するとチクチクが軽減します。

共に撚りをかけられている「糸」を、カサ高いものやマルチフィラメントに変更したり、ラメ糸の形状を理解した上で、肌に当たりにくく、組織などを設計して頂くのが良いです。

3 ジーンズの「洗い」でラメ消失



メタリックな雰囲気のあるラメ糸は、「金属蒸着」がされたものです。

ブリーチの漂白剤で金属が消失してしまったり、蒸着されている「フィルム」が摩擦で白濁し、光沢が鈍っている等も考えられます。

基本的にジーンズの洗い加工には、ラメ糸は持ちにくいです。

「薬品ダメージ」+「物理的ダメージ」が共に加えられるからです。

使用したいラメ糸がお有りの時は、ラメ糸メーカーにご確認される事が安心です。

4 反染でラメ糸の色が変わる



反染(後染)でラメ糸は様々な変化をします。

- ①「反応染色」のアルカリで「金属蒸着」部分が消失してしまう。
 - ②「汚染」で本来染まらないタイプのラメ糸に染め色がついてしまう。
 - ③「高圧分散染色」でラメ糸が共染まりしてしまう。
- 等、どの素材の生地でどの染色をしたかにより、解決法が異なります。

問題のラメ糸と、どの「素材」と混ぜた生地、どの「染色」を用いて、その後、どの「後加工」をするのか。

この一連の流れを把握して頂いて、**商社さんでなく「ラメ糸メーカー」に「使用可能なラメ糸」を出してもらうのが最も安全です。**

染色で問題なくとも、その後の後加工が原因となることも多いです。